

放送大学講義（10月15日）の概要

東京都 中島

●テーマ

「2020年大会に向けた東京の都市づくり ～その後の展開も見据えて～」

●講義概要（案）

1. 東京2020年大会について

1964年大会と異なり、2020大会はこれまでのインフラストックを活用した対応となることを前提に、必要なインフラ整備等について講義を行う。

1-1 大会概要

ロンドン大会の規模などに触れたうえで、東京大会の概要、新規施設、再開発事業を活用して整備する選手村などについて説明する。

1-2 大会を支えるインフラ

羽田空港の機能強化（飛行経路変更）、首都高速晴海線（有明～晴海）、競技会場周辺駅のバリアフリー化など、大会を支えるインフラについて説明する。

1-3 輸送計画

選手や観客などの輸送対応の考え方について説明する。

2. 大会後の将来に向けたインフラ整備

インフラ整備には時間を要することから、できるだけ将来ニーズを汲み取りながら整備する必要があるとの考えを念頭に、今後の東京のインフラ整備の内容について講義する。

2-1 都市づくりのグランドデザイン

今年9月に都が公表した、2040年代の東京を見据えた都市づくりの考え方などを示した「都市づくりのグランドデザイン」の概略を説明する。

2-2 道路ネットワーク

三環状道路や都市計画道路の整備など今後の道路整備の考え方を説明する。

2-3 鉄道ネットワーク

昨年4月に公表された交通政策審議会答申による新規路線の整備など、今後の公共交通整備の考え方について説明する。

2-4 拠点開発

渋谷や品川、新宿など、今後の東京の成長に必要な拠点再整備の概略について説明する。

2-5 インフラ運用の工夫

高速道路の料金体系の変更、時差出勤による混雑緩和など、インフラストックを最大限活用する方策について説明する。

●使用するパワーポイント資料

別紙表のとおり（全体で80枚程度）

使用する資料の概要

1. 東京2020大会について		
		ロンドン大会実績
		東京大会概要
		新規施設
		選手村の再開発
		羽田空港機能強化
		首都高晴海線Ⅰ期
		臨海道路南北線
		環状2号線、都心と臨海を結ぶBRT
		国道357号東京港トンネル
		鉄道駅バリアフリー化、案内サイン改善
		推進体制
		会場配置
		選手や観客数の想定
		輸送ルートの考え方
		輸送管理、TDM
2. 大会後の将来に向けたインフラ整備		
		首都高日本橋地下化
		将来人口予測
		2040年代の社会状況
		目指すべき都市像、都市構造
		首都高中央環状線整備効果
		三環状道路の整備、将来構想線
		都市計画道路の整備方針
		道路空間のリメイク
		道路空間のオープン化
		交通政策審議会答申
		踏切対策基本方針
		連続立体交差事業
		フィーダー交通
		主な開発の位置図
		渋谷周辺地区
		品川駅周辺地区
		新宿駅周辺の新たなまちづくり
		高速道路の新たな料金体系
		時差Biz（快適通勤ムーブメント）
		鉄道の上空利用（バスタ新宿）
		道路の上空利用（品川・国道15号）